

第13回新生匠瑳戦略会議 会議録

開催日時：平成24年1月18日（水）

午後7時00分～8時55分

開催場所：八日市場ドーム選手控室

出席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃、渡辺新

（団体推薦者）宇野充紘、萱森孝雄、越川竹晴、越川八代枝、鈴木和彦

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、永野亮太、林暁男、八木幸市

（13人／名簿順）

欠席委員：（団体推薦者）安藤建子、橋場永尚

（2人／名簿順）

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

2 あいさつ （渡辺委員長）

（省略）

3 議 事

（1）提案書（中間報告）について

[議長]

今日は、中間報告の内容、取りまとめの手法についてフリーに議論していただきたいと思います。中間報告の提出期限についてですが、これはまだ事務局に相談してなく、私が勝手に考えていることですが、3月末では遅いでしょうか。

[事務局]

遅いというより、市にもスケジュールがありますので、早い方が良いということです。

[議長]

できれば、次回までに具体的な案まで出して行って、そこで委員の皆さんに議論をしていただきます。そして、3月の戦略会議で最終チェックを行ったあと、市へ提出しようと思っているのですが、それでいかがですか。

[事務局]

次回で具体的なかたちにしていただければ、ありがたいと思います。

[議長]

委員の皆さんはいかがですか。A委員はいかがですか。

[A委員]

3月22日に最終チェックということですよ。私は学位授与式がありますので、出席できません。

[議長]

それではメールでいろいろ送らせていただきますので、よろしくお願いします。

私の考えでは、会議以外の場で皆さんの手を煩わせたくありませんし、ボランティアは良くないと思っていますので、その分時間はかかってしまいますが、何とかやっていきたいと思っています。

前回、A委員とB委員から会議録の短文抽出について提案がありましたが、それについて事務局から説明してもらえますか。結論から言うと、事務局ではできないということですよ。

[事務局]

前回の会議で、事務局でも具体的な部分まで見えなかったところがあり、スケジュール的にも厳しいものがありました。具体的な提案部分だけなのか、それともプロセスも含めてなのか、どの程度のセンテンスにまとめたらいいいのかなど、事務局で具体的なイメージが湧かなかったので、その内容によってどのくらいの時間がかかるのかが予測できませんでした。

[議長]

大学のゼミやワークショップのときにもよくやる手法なのですが、これはA委員に説明をお願いします。

[A委員]

プロセスというのは、議論のプロセスであったり、成果を出すためのプロセスだったり、成果そのものの提案だったりして、それがまた面白い部分でもあるのです。成果だけだと味気ないものになりますが、議論の中のちょっとした一言で物事が動いていくとか、面白い提案は留まってずっと考えてみるとか、会議録というと主要な成果だけに留まりがちですが、こういう考え方をもち構造的に示してあげることが大事なのです。私は、成果だけ、プロセスだけというふうに分けないほうが、戦略会議の良さが出ると思います。

[議長]

B委員、何か補足はありますか。

[B委員]

特にありません。

[事務局]

まとめる手法として、どういう方法でやるのでしょうか。A4用紙一枚にまとめるのか、それともワークショップのように大きな紙に貼り出せるようにするのか、その点はいかがですか。

[議長]

形式は特に問いません。

[事務局]

発言内容を要約するかたちでよろしいのですか。

[C委員]

それでいいのではないのでしょうか。

[A委員]

できれば、全体としてどのような意見が出てきたかをビジュアルに俯瞰できるようなものがあって、そこから部分的に膨らませていくと、肉付けができるようになります。会議録そのものではなくて、そこを土台としてどんどん膨らませていくことが中間報告のイメージに近いと思っていました。

[議長]

報告書や論文を書くときに、私は面倒なので自分で省いてしまいましたが、結局同じ作業を頭の中やパソコン、ノートの中でやっているんですね。A委員の言いたいことを簡単に言ってしまえば、今までの議論を整理して、そこからまた新しいものを作り出したり、不足するものを追加していこうということなのですが、その手法はKJ法などいろいろあるということです。

[事務局]

概要はわかりました。委員長と相談させていただきますが、次回までにということであれば、準備はさせていただきます。

[議長]

次に、報告書の内容についてですが、今まで「里山・檀林ふおーらむ」や「商店街復権会議」をやっています。これらを中間報告に入れてもいいのですが、最終報告に全てまとめて加えてもいいのではないかとも思っています。現在、匝瑳市の位置付けを統計的に処理していますが、財政状況はひどいですね。行政は単式簿記でやっていますので、もし複式簿記で見えたら、隠れた負債が出てくるのではないかと思っ

てしまいました。市の人口は全体的に減少していますが、市内地域間の格差が激しいです。

現在市で出している計画や報告書を集めてもらうよう事務局に依頼しましたが、あまり多くありませんでした。これらは行政側で出したもので、他にも諸団体などいろいろな冊子を作成している可能性はありますよね。もしかしたら、そういうものの中から、民間非営利活動につながるような契機が見つかるかもしれません。こういうものを基にして、匠瑤市の位置付けを作っていったらどうかと考えています。

その後、市から投げかけられている検討課題について、前回、何らかのかたちで応えるべきだというのが皆さんの意見でしたので、それを入れて書きます。ただ、その際に、新しい公共や市民協働というものを前面には出さないまでも、そういう枠組みを使いながら解決方法を目指していくものを作りたいと思っています。また、それらの枠組みにあてはめて書いてしまった方が楽なのですが、できるだけ匠瑤市の実態に即したかたちで問題解決を図れたらと考えています。

[事務局]

実態を考えていただけるとありがたいです。A委員が言われている市民協働という仕組みも、匠瑤市で実践しようとするハードルがありますので、委員長が言われたようにそれらを咀嚼して考えていただければと思っています。

[議長]

学問の方法でもあるのですが、実態の中から見出していかないと解決は難しいと思います。匠瑤市の実態として、商店街復権会議のときも思いましたが、新しい公共や市民協働とは程遠いですね。しかし、それらが全て良いとは思っていませんが、なるべく市がそういう方向に動くような、まさに戦略を持った報告書にしたいと思っています。ここまでは私の個人的な考え方ですので、今日は皆さんの意見をフリーに言っていただいて、次回までにデータや統計的なものも整理し、具体的なかたちを作りたいと思います。その上で、皆さんに最終チェックをしていただき、若干の手直しを経て、3月末までに報告書を出せればと思っています。

[B委員]

委員長が言われたこととあえて違ったことを提案しますと、委員長の考えは、科学的なデータを携えてそれらを分析し、そこに戦略会議で出された内容も盛り込みながら、論理的に導き出される将来像やそれらを実現するための課題についてひねり出していくという整理の仕方になると思います。しかし、それはかなり大変な作業です。所詮、この場で話し合ってきたことは、極めて感覚的な議論です。よって、素直に感覚的な議論だけで集約してしまってもいいのではないのでしょうか。感覚的に過ぎない

と言ったのは、科学的な根拠が必要ないということではありません。地元で生活して、いろいろな活動に携わっている皆さんが感覚的なことをおっしゃっているわけですから、それで皆さんの共通点が描き出されれば、それは正解と言っていいのだと思います。これまで人口や財政などの変化について、分析的に議論してきた経過が戦略会議にはありませんし、会議録が議論を重ねてきた絶対の事実ですから、会議録を整理し、それらを組み立てていけばいいのではないのでしょうか。

ここから先は提案になりますが、客観的なデータを読み込んで処理していくのは大変な作業です。それをやるというと委員長の顔しか思い浮かばないのですが、それは違うのではないかと思います。先ほど会議録の話も出ましたが、今日これから会議の時間がまだあるわけですから、今までの議論を思い出して、これまでどういう話し合いをして、どういう意見が出たのか、記憶に残っている部分を皆さんで出し合えば、結果的に会議録からポイントを抜き出すという作業を、この時間でできるのではないのでしょうか。所詮、人に見てもらって説得力のある内容というのは、現場にいた私たちの記憶に残っているものでなければ、あまり意味がないと思います。印象深く、皆さんの記憶に残っているものを出していけば、報告書の骨格はできると思います。第1回目から順番に覚えていることを羅列していき、それは意見でもプロセスでもかまわないのですが、それらを原因や現状認識、提案などのカテゴリーに分類し、全体を構築していく作業をこの時間でできないかという提案です。

[議長]

B委員が言われた前半部分(感覚的な議論)は、まさしくそのとおりです。しかし、私があえて言ったのは、感覚的な議論から一步進んだところまで出した方が、報告書としてはいいのではないかと思ったからで、そこは皆さんで議論していただければと思います。

[A委員]

科学的なデータを感覚的に見ていくと、まったく見方が変わるケースがありますので、そういうものを出していくのも一つの手ですよね。同じ科学的な方法であれば、修士論文や卒業論文のように密度を上げてやればいいのかもかもしれませんが、そうではない方が逆にユニークな見方ができるのだと思いますし、それが戦略会議の基本ソフトだと思います。

[議長]

まとめ方については、どうしても自分が今までやってきた仕事の中で発想が出てきてしまうので、感覚的あるいは感性で分析し、発想を変えるということが、私にとっては怖さを感じます。

[B委員]

それは私も同感です。職人芸として、調査・レポートを書くことを仕事としている人にとっては、長い目で見ると説得力のあるレポートになるとは到底思えません。ただ、ここで無理をすることで、いわば嘘になってしまう可能性があるわけです。今は報告書の提案力や説得力というよりも、まずは今までやってきた会議の中身を整理しなければ、前進できない気がします。

[議長]

前回の会議で、A委員、B委員から話があったときに「プロセスを踏みたい」と言ったのは、まさしくそういう理由からです。感覚的な議論をしてきましたが、かなりいろいろなテーマが出ています。それを少し整理する必要はあると思います。D委員、いかがですか。

[D委員]

まだよくわからない部分があるのですが、この報告書は誰のためにどういう趣旨で作成するものなのでしょう。市民のためか、それとももっと広いとらえかたをするのか、それによって書き方も変わってくるのではないのでしょうか。

[議長]

直接的には市長に対してです。それを行政がどう施策化していくかですが、もうちょっと広い意味でとらえれば、市のためです。報告書を市民に対してオープンにするかどうかは、行政の判断になります。

[事務局]

最初の戦略会議でご指摘を受けた部分と関連してきますが、当初は跡地利用について具体的な解決策を求めていました。戦略会議から頂いたご提案を市が検討していくというプロセスでしたが、そうではないという議論が続きました。「市民協働」や「人ごとから自分ごとへ」という考え方になりますが、いずれにしても行政主導型ではうまくいかないだろうということで、その点については市長も了解しています。

市民参加のまちづくりの基本として、公募の委員さんも含めて、まちづくりの方向性や提案をまとめていただき、それを市長が参考にさせていただくという考えは今も変わっていません。ただし、市が当初考えていたより、実際はもっと密度の濃い議論をされてきているので、市が施策を実施していく際には、より具体策に踏み込んだ内容の方が現実的な対応ができるのではないかと考えています。

[議長]

報告書や今後の議論にも関係してきますが、D委員と事務局の発言で気になるところがあります。先ほどD委員は「誰のために」と言っていました。市のためにと

ったときに、「市＝市長・行政」になっていますよね。それは違うと思います。新しい公共という言葉はよく出てきますが、「公共＝市・行政」ではないという方向で、今まで議論をしてきました。それから事務局の発言などで、市長がよく「市民参加」と言っていると言いますが、市民参加については古くから議論があり、その参加のあり方が変わってきています。その参加のあり方の一つに市民協働があるわけです。参加のあり方については、よく検討した方がいいと思います。

[事務局]

首長の姿勢にもよると思いますが、住民自治ということで、市の施策の相当部分を市民に投げている所もあります。市長がどのスタンスに立っているかというのは、今ここで明確に申し上げられませんが、今までの会議録は市長もよく目を通されていて、いろいろと考えるところはあると伺っているので、中間報告・最終報告を頂く中で、市長のスタンスも変わってくる可能性はあると思います。

[議長]

市長から市民に投げているということですが、それが住民自治ではありません。結局それは行政が市民に何かを与えているという感覚で、そうではなく、もっと市民の活動の場を作っていくことが今後の行政のあり方だと思います。

[事務局]

説明が不足していました。私が先ほど投げていると言ったのは、予算の編成まで市民組織の中で骨格を作っている自治体も中にはあるということです。そこまでやっている自治体はなかなかありません。

[議長]

最初の戦略会議で、市長は市民参加という言葉強調していましたが、市長の言う市民参加とはどういうイメージなのでしょう。一度本人に確認した方がいいかもしれません。

[B委員]

中身にふれてしまう話ですが、本日配られた広報そうさを拝見しますと、S☆cute やソーサマンのことが掲載されています。例えば、S☆cute やソーサマンがアイドル・キャラクタービジネスとして、商売が成立するものでなければ意味がありません。それらに携わっている人たちが本気でやっていて、そのビジネスと市のプロモーションがお互いに協力しあうという関係で、市民参加・協働になっていかないと意味がありません。今までは、市がプロモーションしようというときに、市民の知恵を借りてやっていくという方法をしてきています。そうすると、プロモーションそのものは手法に過ぎなくて、それにはコストをかけなければならないシステムになっています。そ

うではなくて、アイドル・キャラクタービジネスとして成立させるために、市民が知恵と汗と涙を流してビジネスをやること、そこに匠瑳という名前をかぶせて商機を探している、ここまでやって初めて市民協働と言えるのです。こういう分析は科学的に出てくるわけではなく、この場でしか出てこない話題なのです。最後にいやらしい言い方をすると、今話したようなことが、報告としてまとまって提出されることは、市にとっても都合のいいことだと思います。つまり、依存してはいけないということ、市民の会議で市民が自ら提言するというのは美しい話です。しかし、別に嘘を言っているわけではなく、それが皆さんの合意のポイントであれば、報告として出すことに相当の意味があると思いますし、A委員のおっしゃる基本ソフトの更新にもつながると思います。

[A委員]

この場がとても市民協働的なので、協働とは何かという議論よりは、考え方や意見の出し方などを共有しようということです。

[議長]

私も当初、そう考えていました。しかし、市では結果を求めていますよね。

[事務局]

最初は結果を求めていましたが、会議が進むにつれて方向転換したつもりです。当初は具体的な提案として、例えばJ T跡地に企業を誘致するとか、売却してしまうとか、そういう結論を想定していたのですが、戦略会議ではそうではないという議論をしてきました。もちろん、結果としてはわかりやすく、それを実践していくときに何かいいアイデアが含まれていれば、非常にありがたいということです。

[議長]

E委員、いかがですか。

[E委員]

前回と今日の会議で感じたことは、形式ばった結論が最終的に出てくるような議論は、今までしてこなかったということです。前回の会議で、A委員とB委員から会議録の要点をまとめるという話がありましたが、要点を抽出する作業が難しいのであれば、会議録をフローチャート化し、全体像を確認できれば、今まで話し合ってきた内容がイメージしやすいのではないかと思います。

[議長]

A委員に質問です。先ほどE委員からもフローチャート化という話が出ましたが、政府の中間報告や答申などを見てみると、内容は全て文章です。それらを作るときに、委員と事務局で下書きを書いたりするのですが、出てくるものは文章で論じられてい

て少し難しいのです。それらをわかりやすくするために図式化するのだと思いますが、確かに感覚に訴えるものはありますが、その図に解説が必要になったりして、結局よくわからなくなるような気がするのですが。

[A委員]

まちづくりというものは、非常に多様な人が関わってきますので、そこは逆に売りになると思います。具体化する際にはもっと詰めていく必要はありますが、とりあえずスローガンを挙げるという段階では、あんまりきちっとやりすぎない方がいいと思います。

[E委員]

先ほど私が言いたかったのは、これは中間報告なので、こうしなきゃいけないという議論はしなくてもいいのではないかということです。まず、今までの議論をまとめることをしないと、先に進めないと思ったからです。

[議長]

本日、議論していただきたいのは結論ではなく、構成や内容、表現方法などについてです。特に、B委員の提案で報告書を作成すると、私が考えているものよりずっとユニークなものができると思います。前にも言ったことがあります、B委員の発言は妙に説得力がある気がします。感覚的にまとめていったら、とても面白いものができるのかもしれませんが、F委員、いかがですか。

[F委員]

D委員が言うとおりの、誰に向かって出すのかが大変重要だと思います。市長としては、ここに出された中間報告をベースに検討し、議会などで提案していくのだと思いますが、これが市民に向けて出すものだとしたら、内容が変わってくるのではないのでしょうか。市長の一番の考えとしては、まず懸案事項に関する対応です。議会でも戦略会議に依頼しているという答弁になっているので、少なくとも戦略会議からの報告を待って、そこから市長が政策決定をしていくことになっているわけです。ですから、懸案事項については、ここに出されたいくつかのポイントを提示する必要があると思います。旧飯高小学校については、県教育庁から具体的な申入れがありましたので、これについては附帯事項として資料館や地域のコミュニケーションの場にしてほしい、ということと言えるわけです。JT跡地については、具体的な提案などはありませんので、ここに出されたアイデアを提示し、後は市長がどう考えるかだと思います。よって、中間報告はまず市長に向けて出すことが第一だと考えます。

[議長]

F委員の言うとおりの、まずは戦略会議から直接市長に向けて出すことが大前提だと

思います。G委員、いかがですか。

[G委員]

時間も限られていますし、シンプルにまとめる方が有益ではないでしょうか。市の計画書や報告書にもいろいろなデータが蓄積されていると思いますが、それは不必要とまでは言わないまでも二次的なものとして、参考程度に添付するぐらいでいいと思います。むしろ、今まで話し合ってきたことを文章中心にまとめた方が、作業量や市民の理解度という観点から適当だと思います。

先日行ってきた船橋市の葉田台というところでは、新興住宅地の中に小学校跡地を活用した事例がありましたが、周辺住民との接点はほとんどないそうです。

[議長]

それについては、以前、H委員からも類似の発言がありましたよね。これは、私の個人的な考えですが、旧飯高小学校については、県教育庁からの申入れがありますが、ここで議論されてきた内容は、中間報告に盛り込むべきだと思います。申入れがあるからといって、H委員の市民活動や里山保全などの活動がなくなってしまうわけではありません。

[事務局]

旧飯高小学校については、県教育庁からの申入れを受け入れる方向で、地区の説明会を実施しており、今のところ大きな反対は出ていません。これまでに提案のあった旧飯高小学校の利活用については、例えば、旧飯高保育所で実践していくなど、小学校と比べると多少コンパクトにはなりますが、規模的には逆に実践しやすいのではないかと考えています。委員長の言われるとおり、議論してきた内容・活動が全くできなくなってしまうということではありませんので、むしろ中間報告に盛り込んでいただきたいと思っています。

[議長]

懸案事項として直接出されたものは旧飯高小学校ですが、現在は県教育庁の申入れを受け入れる方向で進んでいるわけです。旧飯高小学校の利活用を考えてきた中で、里山や檀林などのもっと大きな視点が出てきましたので、そこは生かしていきたいと思いますし、匝瑳市のまちづくりの方向性とも関わってきます。D委員、いかがですか。

[D委員]

先ほどB委員が言われたような、感覚的な議論にデータをつけ加えることで、科学的な根拠も示せると、多くの方の共感を得られ、多くの人を巻き込んでいけるのではないのでしょうか。グラフやデータだけだと、どうしても読み手にとって難しい内容に

なってしまう恐れがあります。

[議長]

その気持ちは私もよくわかります。私は歴史が専門ですので、歴史というのは文献史学で資料やデータを基に解きおこしていくのですが、最近はオーラルヒストリーという体験者からのヒアリングを入れたりしています。これは感覚的なものですが、客観的なデータとつき合わせていくと、かなり幅が広がります。I 委員、いかがですか。

[I 委員]

みんな匝瑳市のことは愛おしく思っています。本日、電話で「匝瑳市って、どういう漢字を書くのですか」と聞かれました。相手は福島の人で、匝瑳市のことがよくわからなかったみたいなので、私は「地井武男さんの出身地です」と答えました。匝瑳市には里山があり海があり、街中は少し元気がありませんが、非常にいいところだと思います。現在持っているまちの魅力を生かして、みんなが頑張らなければいけないと思います。

いずれにしても、私たちが考えなければならないのは、市から出された4つの懸案事項についてです。会議録で自分の発言を振り返ってみたら、JT跡地については公園にしてほしいとか屋台村にしたらどうかとか、けっこう言いたいことを言っていました。あと、市民病院については私も通っていますが、だんだん良くなってきていると思います。以前、B委員が「みんなで市民病院に通ったら問題は解決するのではないか」という発言をされていましたが、私はこれに感動し、現在は友達みんなに「具合が悪くなったら市民病院へ行こう」ということで呼びかけていますので、市民病院は何とかなるのではないかと考えています。また、8月に戦略会議で海岸付近を見に行きましたよね。しかし、実際によく見てみると、けっこうゴミが落ちていたりして非常に残念に思いました。海のことには地元の人が自分ごととして考え、みんなで浜をきれいにしようと努力すれば、きっと素敵な海岸になると思います。

[議長]

先ほどI委員が、海のことには地元の人が考えると言っていました。先日行われた匝瑳の魅力ある海岸づくり会議では、公開で開催しているにもかかわらず、傍聴者は3人だけでした。あんなに侵食のことを言っているのに、結局人は集まりませんでした。

[I 委員]

郷土愛がないのでしょうか。飯高地区の人は、「里山・檀林ふおーらむ」のときにけっこう集まりましたよね。

[H委員]

自分が通っていた学校などが話題の中心となるため、自分ごととしてとらえやすいからだと思います。しかし、海の問題は取っ掛かりから難しいですよ。

[議長]

海のそばに住んでいる人たちにとって、侵食はとても深刻な問題です。C委員、いかがですか。

[C委員]

侵食に対しては、県で予算化までいってダメにしてしまった負い目もありますし、山とは違って非常にお金のかかる問題なので、どうにもならないという半分あきらめの意識がかなりあると思います。自分の生活がかかっているのに、人ごとではないのですが、やりようがないというのが正直なところではないでしょうか。

[議長]

海岸地域の振興についても、懸案事項の一つですよ。前回会議の終了後、A委員から教えていただきましたが、たとえ侵食対策をしても元通りには戻りません。人口減少と同じで、侵食も徐々に進んでいくことを前提としたまちづくりを考えていかなければなりません。一応、海岸地域の振興については、海岸づくり会議の動向を見ながらということになりますが、今まで議論してきたことは中間報告に反映させようと思っています。J委員、いかがですか。

[J委員]

戦略会議の性格や位置付けから、なかなか深いところまで切り込めないという実情があります。今まで議論してきた内容を踏まえて、そこに市民協働や新しい公共という概念を付け加えながら、まとめていくのがいいのではないのでしょうか。

街中の商店街もやる気のあるお店は国道沿いへ移転しているわけですが、今月にも一店駅前へ移転したお店があります。このように、残っている商店にもまだチャレンジ精神があるお店はあります。

[議長]

商店街復権会議の際に、シャッターが閉まったお店を借りたいと希望する人がいたら、実際に貸しますかという議論をしたら、あまりいい返事がありませんでした。NPOのKさんは、もし貸してもらえれば、仲間で利用したい人はいると言っていました。やはり住居と一緒にいると、使用していなくても店舗を貸し出すというのは難しいことなのではないでしょうか。L委員、いかがですか。

[L委員]

こうすべきだという提案書というかたちでは出せませんが、中間報告であれば、今までの会議録の中から出てきたアイデアを抽出し、集約したかたちで報告書を作れ

ばいいのではないのでしょうか。また、懸案事項以外にも農業や生物に関する自発的な報告もありましたので、それらも中間報告に反映させたいと思っています。

[議長]

懸案事項だけでなく、今までいろいろなことを議論してきたので、会議録を整理していくと、意外と市全体のあり方を描くことは可能なのかもしれない。

[事務局]

もともと中間報告でお願いしていたのは、跡地利用に関することだけでした。ただし、4つの懸案事項のうち、跡地利用以外は、取り扱うテーマとして大きく幅の広いものです。全てを包括して中間報告を作成していくと、最終報告との兼ね合いもあるので、まずは緊急的な課題となっている跡地利用を中心に戦略会議としての意見を集約していただければと思っています。

[議長]

全部の内容を盛り込むということではなく、全体を見ながら市から出された懸案事項に徐々に絞り込んでいって、提言としてまとめていく方向になると思います。

[B委員]

跡地利用に限ったという発言は承服しかねる話で、先ほど事務局が「シフトチェンジ（方向転換）した」という発言に関わる話だと思います。以前の会議でも、戦略会議というものがいまだによくわからないということは何度か申し上げました。具体的な事業に対して意見を言うということは、このフォーメーションで適切な議論ができる状況にはないということを確認し、したがって全体的に仕組みなどを追求しながら議論していく方向になってきたわけです。それがシフトチェンジということですよ。市長にもシフトチェンジについて調整していただき、4つの懸案事項に対する処方箋を出すということに縛られず、議論してもよいということで御了解いただけていると思っています。シフトチェンジ前の中間報告のイメージは跡地利用に限定したもので、その解決策を求めていたことはわかるのですが、現在は跡地に限った議論ではなく、問題状況全体をどのような方向でとらえていくかという議論をしているわけです。もちろん跡地利用の検討もしているわけですから、中間報告でふれなければなりません。しかし、突っ込んだかたちで跡地利用の具体的な解決策を羅列していくというのは、むしろ踏み込み過ぎだと思います。

[事務局]

跡地利用に限定してお願いしているというわけではなくて、最終報告と中間報告の議論がありましたので、私が当初イメージしていたことを申し上げたままで、先ほどB委員がおっしゃられたとおり、シフトチェンジについては市長の了解を得ています。

ここであえて跡地利用に限定しての中間報告を求めているわけではありませんので、誤解のないようにお願いします。

[議長]

市全体のあり方やまちづくりの仕組みを考えていく中で、懸案事項を位置付けていくということだと思います。懸案事項だけを取り出して、その解決策を議論するのはとても無理です。跡地についても市全体の中でとらえていくと、市全体の仕組みや構造が問われてくると思います。

こうして議論していくと、そもそも戦略会議とは…、ということが出てきます。私も最初の会議で初めて検討事項の内容を見ましたが、B委員が「これは事業ですね」と発言されたのを聞いて、確かにそのとおりだと思いました。当初感じたことは、J T跡地などについて、議会でも行政でも解決の目途がたたなかった問題を、「戦略会議ができた、それじゃあそこへ投げちゃえ」としてだされたとしか感じ取れませんでした。

[事務局]

最初の会議で、「これは市民の課題ではなくて市長の課題ですね」というお話もありましたが、今までに戦略会議の中で全国の成功事例や具体的なアイデアなどをいただき、それらを踏まえて御提案をいただけたらありがたいと思っていました。しかし、戦略会議はそういうものではないという考えですので、事務局としても当初のスタンスを変えたつもりです。

[議長]

戦略会議の方向性を変更するのに、市長はすぐ納得してくれましたか。

[事務局]

納得していただきました。当初、跡地利用については議会でも質問が出ていましたので、早期に解決できればベストだと市長は考えていたと思います。

[議長]

J T跡地については、商工会女性部でワークショップなどをやっていましたよね。M委員、いかがですか。

[M委員]

意見というか今までの感想を言いますと、B委員から「人ごとから自分ごとへ」という報告を聞いたとき、心に響きました。商店街復権会議では、期待していた成果は出なかったかもしれませんが、商店街は商店街で真剣に考えているので、商店街の活動をみんなでサポートできる体制ができたらいいのではないのでしょうか。

[議長]

商店街復権会議が終わった後に、Nさんに話しかけられました。商店街で行っている「一店逸品運動」を主導したとても熱心な方で、商店街復権会議でJ T跡地の売却の話が出たときには、大変お怒りのようでした。C委員、いかがですか。

[C委員]

結局、この戦略会議で一定の方向性を出すのは無理だと思います。委員数も多いですし、例えば、J T跡地については、私みたいに銀行を誘致すればいいという考えもあれば、公共的な使い方がいいという人もいます。事務局としては、こういう具体的で明確な利用方法が出された方がいいのだと思いますが、他にということであれば、逆にどんな利用方法があるのか皆さんに聞いてみたいです。J T跡地については、そもそも市民が望んで買い求めたのかといえば、私はそうは思いません。結局、匝瑳市があ土地を使いこなすのは無理なのではないかと思います。

[議長]

議会ではどういう意見なのですか。

[C委員]

J T跡地については、議会からどうこう投げかけるものではありませんので、市から出された提案を審議して、賛否を問う場所であって、事業を模索する機関ではありません。銀行に限らず、企業などを誘致できれば雇用も生まれるわけですから、来てもらって迷惑なことはないと思います。

[議長]

H委員、いかがですか。

[H委員]

C委員の話を聞いていると、なるほどと思うと同時に、旧飯高小学校についてもいいタイミングでいい話が来たのだと思いました。

[議長]

でも納得はしていませんよね。

[H委員]

納得はしていません。先日、Kさんからも連絡がありまして、農業体験というかたちでやってみたいという話をしていたので、計画してみてもどうかという話をしました。しかし、それには月10万円くらいの収入が見込めないと年間約150万円という維持管理費を賄うことはできません。それについてもったいないという話ですから、それを払うことができれば、旧飯高小学校は地元で管理を引き受けると言えるわけです。地元で管理ができれば、県教育庁の申入れについては反対です。

[議長]

A委員、資金を集める何かいい方法はないでしょうか。

[A委員]

それこそ戦略だと思います。

[E委員]

150万円というのは、市で管理した場合で、除草作業や植木の剪定などを地元の人が手弁当でやれば、もっと安くなるのではないのでしょうか。

[H委員]

では、実際にお金をどう出すかが難しいですし、事業に関わって利益を出していくわけですから、それについてはC委員の言われるとおり、外に投げた方がよっぽど楽だと思います。

[C委員]

市長は、跡地利用について何か考えはないのでしょうか。

[事務局]

市長は、戦略会議から御提案をいただいて、それをもとに判断するという考えです。

[議長]

市では、H委員がされているような活動を政策的に促進していこうとは思わないのですか。

[事務局]

旧飯高小学校について県からの申入れがなかった場合、「里山・檀林ふおーらむ」も開催し、そういう方向で議論がされていたわけで、そういう御提案があれば当然市としても検討することになります。ただ、行政にとっては全く下地がないところへの支援ということではなくて、自分ごととしてやってくれる人がいれば、そこに支援させていただくことはあると思います。

[議長]

H委員についてはすでに地盤があり、Kさんのような外部からも人が入ってきて、活動が拡大していく段階ですよね。現在、市が行っていることは、結果的にそれらの活動を抑えることになりかねません。

[事務局]

旧飯高小学校についてはそういうことになるかもしれませんが、例えば、旧飯高保育所でそれらの活動を実践していくことも不可能ではないと思います。

[議長]

H委員、いかがですか。

[H委員]

小学校と保育所では規模が違いますし、保育所は学校の裏側にあるので、やはりメインはあくまで小学校です。

[議長]

おそらく旧飯高小学校については、特別支援学校として活用されていくのだと思います。問題は、H委員のように、市民の中から積極的に活動したいという人が出てきたときに、市は支援しますか。また、活動の場を作ってあげることができますか。

[事務局]

匝瑳市総合計画中期基本計画でも市民協働について記載しているわけですから、当然支援させていただくことになると思います。

[議長]

時間もあまりなくなってきましたので、そろそろまとめたいと思います。

最初に議論した会議録の整理についてですが、次回これをやりましょう。客観的なデータは私の方で整理し、荒削りでも出します。枠組みは決めずに、ゆるいかたちで出したいと思いますので、A委員、B委員の指導を得て、皆さんの意見を取り入れながら整理して組み立てましょう。そうしないと、なかなか前に進めません。

[F委員]

J T跡地について、市の各課単位で国の補助金を活用して何かを造ろうと調べたことはありますか。

[事務局]

全庁的には福祉、病院、産業振興など、補助金や予算なども含めて、全課で総合的に検討しました。その結果、市の直営では具体的に案が出てきませんでしたので、事業提案型のプロポーザルにより、民間活力・資金の利用ということで、売却を考えたわけです。

[F委員]

国の補助金を頼って、例えば市の負担が4分の1で済むような、そういう方法も考えましたか。

[事務局]

市が直営でやる場合、市民のために必要なものを造ることになるわけですが、それについての検討はしています。その際に、補助金ありきではなく、まずどういう目的で使用するかが大事で、それが出てきた段階で利用できる補助金を探していくことになるのだと思います。必要ないものを造っても意味がありません。

[B委員]

私の考えでは、そういう議論の仕方をやめようという認識で、戦略会議が開催され

てきた気がしてなりません。J T跡地については、具体的な利用方法があって取得したわけではありませんよね。であれば、市民のためになるものとする必然性がありますが、土地があるという事実だけをもって市民のために何か利用しようというのが唯一の選択肢かのような考え方が、そもそも問題を難しくさせているのです。J T跡地を資産と考えれば、当然売却も考えられるし、何かを育てるということであればJ T跡地をてこにして、貸し付けることも考えられます。市民のために…という考えばかりしていると、選択肢の幅を狭めることになると思います。つまり、市民のために何かを造るという選択肢だけではないという方向性が、J T跡地に関する戦略会議の結論だと言えるのではないのでしょうか。ただ、それらの選択肢を比較してどれがいいということまでは議論していませんので、中間報告の段階では言えないと思います。

[議長]

事務局に聞きますが、市役所の北側に駐車場を整備する計画がありますよね。予算はいくらぐらいかかるのですか。

[事務局]

約4億円ぐらいです。

[議長]

公園整備を止めて、J T跡地に使うことはできませんか。

[事務局]

これは合併特例債事業になります。

[C委員]

議員の中には、給食センターを造ってはどうかという意見がありました。

[議長]

4億円あれば、旧飯高小学校の維持管理費も賄えますね。

[B委員]

そこが戦略なのです。これは一つのアイデアですが、J T跡地を売却して捻出したお金で、飯高をてこ入れするというふうに考えることが戦略なのです。J T跡地は市有地なので、公共性の高いものにしか利用できないという限定した考えはやめるべきです。具体的な手法について言えば、利用用途の種類によって受け渡し方の条件を変えたかたちでもう一度使いたい人を募集してみるとか、条件が高かったから応募がなかったという可能性も十分考えられるわけです。一般企業であれば固定資産税を半額にするとか、NPOであれば無償で貸すかわりに税金は納めてもらうとか、条件や手法を変えてみるのも一つの方法だと思います。

[議長]

市としては、土地があるから何とか利用したいというのが前提ですよ。

[事務局]

B委員の言われている手法を排除しているわけではありませんので、それも含めて戦略会議で御提案いただきたいと思います。

[議長]

さて、時間も迫ってきていますが、次回、会議録の整理を行いたいと思います。

[事務局]

具体的な提案や基本的な考え方など、いくつかの項目に区分して、それらをメモ書き程度に羅列したものを資料として配布させていただくということによろしいですか。

[議長]

材料を出してもらえれば、B委員が言われたとおり、1時間の議論でかなりの内容が出てくると思います。それを料理していきましょう。

[C委員]

近隣の市町にあって、匝瑳市にない施設をリストアップしてもらえますか。公共施設でも民間施設でもかまいません。

[議長]

いまだにO委員から話のあった医師会館が忘れられません。

[事務局]

旭中央病院の話为例にさせていただくと、現在、相当な医師が退職しています。例えば眼科を例にとると、今まで8人いたところ、4月からは4人になってしまいます。病床利用率も95~96%になっていて、医師にとっては過重労働になっています。市民病院も旭中央病院から応援していただいていることもあり、非常に厳しい状態です。

O委員も言われていましたが、市内に居住していない開業医の方がけっこういらっしゃるみたいで、そういう方は夜間であっても対応できないという状況があり、それを日常的に日中の時間帯でやれるかという、医師会館の話は理想ですが、現実的にはハードルが高いです。人的な問題で、まず医師の確保ができません。

[議長]

もし旭中央病院が傾いたら大変なことです。

[事務局]

想像以上に旭中央病院の状況は悪いと思います。

[C委員]

一昨日、私も旭中央病院へ人間ドックに行きましたが、確かに状況は良くないと思

います。

[議長]

旭中央病院は、自治体病院の中で全国ベスト5に入りますよね。

[事務局]

全国の1、2を争ってきたわけですが、その旭中央病院でさえ研修医が集まらない状況です。

[議長]

そろそろ時間になりますが、最後に委員の皆さんから何か言っておきたいことはありますか。

[A委員]

私もお手伝いしますので、委員長も含めて、一度まとめ方について議論してみませんか。中間報告の前に中間まとめということで、作業前の土台作りができればと思います。会場が千葉寄りであれば、B委員も手弁当で来てくれると思います。

[議長]

ぜひお願いします。それでは時間ですので、本日はこれで会議終了となります。

[事務局]

ありがとうございました。

4 閉 会